



戦争の恐ろしさ、命の尊さを再確認しました ~「オキナワ平和の旅」参加報告~

2025年12月25日から27日まで、青年部の岩永京夏さんが「オキナワ平和の旅」に参加しました。その報告を1月16日の分会長会で行いました。「オキナワ」から何を学び感じたのか、岩永さんの報告です。



アブチラガマ

私が沖縄平和の旅に行って、率直に感じたことは、私自身、知らないことがとても多かったということです。沖縄で実際に戦争があったことや、辺野古や普天間の基地問題については、ニュースなどで見聞きし、そのような問題があることは知っていました。しかし、なぜそれが問題なのかという点については、実際に基地や跡地を巡ることで初めて理解することができました。2日間を通してさまざまな場所を訪れましたが、特に印象に残った場所についてお話します。

1 日目は、普天間基地や辺野古(へのこ)の基地を見学し、講話を聞きました。私はこれまで、ニュースで基地の移設に反対している人たちの姿しか印象に残っていませんでした。



辺野古基地周辺

辺野古新基地の近くの海岸に行くと、砂浜にはきれいなサンゴが落ちていました。私はその美しいサンゴに夢中になりました。

しかし、そのサンゴは、基地建設の過程で死んでしまい、流れ着いたものだと知りました。その話を聞いたとき、私は基地の移設はよくないことだと思いました。

一方で、基地で働くことで生活を支えている人がいること、家族を養っている人がいることも知りました。

一部分だけを見て感じた自分の思いだけでなく、良い面と悪い面の両方を知った上で、自分の考えを深めていくことが大切だと感じました。



建設中の辺野古基地

2 日目は、ひめゆりの塔と、その隣にある平和祈念資料館を訪れました。ひめゆりとは、沖縄師範学校の愛称です。その学校の生徒や教師が沖縄戦の際に動員され、多くの方が亡くなったことを悼んで建てられた慰霊碑が、ひめゆりの塔です。

平和祈念資料館に入ると、沖縄戦を生き延びた方の証言映像が流れており、戦争で体験した出来事が語られていました。生きるためには食べなければならず、食べるためには「ガマ」と呼ばれる地下の空間の外へ、命の危険と隣り合わせになりながら物資を取りに行かなければならなかったこと、苦勞して取りに行っても、1人あたりピンポン玉ほどものご飯しかなかったことなどを知りました。私は、この事実を知っておかなければならないと思い、15分間の証言映像の間、その場から動くことができませんでした。

奥へ進むと、沖縄戦で亡くなった生徒や教師の写真が展示されていました。写真だけでなく、バレーボールが得意、勉強が得意など、その人の人物像や、いつどこで亡くなったのかが詳しく書かれていました。「この子たちも、普通の学生だったのだな」と思いながら見ていました。

その中に、「お母さん、いつも反抗ばかりしてごめんなさい」と言い残して自決した、という一文がありました。その文章を読んだとき、涙が込み上げてきました。どのような思いで自決に至ったのか、私には想像もできません。戦争の恐ろしさと、命の尊さを改めて強く感じました。



ビーチを遮るフェンスに貼られている警告文

基地司令官の許可なく、下に示す水域へ立ち入る行為、及び本掲示又は関連構造物を撤去する行為は禁止されており、日本国の法令による処罰の対象となりうる。違反行為は日本国警察又は海上保安本部に通報する。

MARINE CORPS INSTALLATIONS PACIFIC
海兵隊太平洋基地

日本の国土の0.6%の沖縄に在日米軍施設の70%が集中しています。その広さは、18,666 ha。北九州市で例えると、小倉南区と戸畑区の面積を合わせたぐらいです。美しいビーチを破壊し、1兆円に迫る事業費をつぎ込み、軟弱地盤の上に建設しようとしている辺野古基地。沖縄県民への過重な基地負担はいつまで続くのでしょうか。

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！

///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

